392 PLUS

みんなのくふうでにぎやかに…

まち協だより67号 発行23.5.11

編　集 みくに地区まちづくり協議会
事務局 三国コミュニティセンター内
坂井市三国町神明1丁目4－20☎82-6400
mikuni-k@mx3.fctv.ne.jp

楽しく一緒にまちづくり
みくにの魅力をプラス!!

「ワタシのお店」大繁盛

みくにワイワイまつりで小学生4グループがフリーマーケット「ワタシのお店」を開きました。玩具、衣服、本などが並べられ、売れ行きも上々。まつりを盛り上げました

■三国の昔ばなし発刊
■町家再生へ向け講演会
■まちづくり協議会総会

「おもてなし」の担い手に

夜の照明演出や街の緑化を

三国湊町家再生プロジェクトの仕掛け人でNTT西日本地域プロデューサーの豊島順子さんの講演会が4月16日、三国コミセンで開かれました。「三国湊と世界を結ぶ～住民はどう向き合うか」をテーマに地元住民が目指すべき方向性を話しました。

「三国湊と世界を結ぶ ～住民はどう向き合うか～」

町家再生の仕掛け人
豊島さんが講演

180人聴講

古い町家10棟を活用した分散型ホテルとレストランを街中に展開する事業。NTTと三国會所などのメンバーが令和元年から検討。民家との交渉を続け欧米の富裕層の外国人客をターゲットに来年1月にスタートします。住民の関心も深く約180人が集まりました。

豊島さんは「宝箱である三国湊を世界へデビューさせる」との意気込みで、これまでの経過を説明、今の観光資源を「点から線で結び面として広げる」ため、住民らの新たな挑戦に期待。世界から訪れる人たちに「本物の日本」としての三国湊らしさを体験させる方策を示しました。

世界に通用する三国湊ブランドを確立するには、住民に「環境整備」と「感情的なつながり」の2つの「おもてなし」の担い手になってもらうことを提案。具体的にはICT（情報通信技術）を活用した町歩きマップ、観光ガイドの作成のほか、夜間の照明演出、各家の玄関先や通りの緑化による季節感、さらに外国人に対し「友人に対するような歓迎の感情」を持つなどの協力を求めました。

住民からは「外国人がたくさん来て、三国がかつてない変貌を遂げるのでは」と期待する声もありました。

つぶやき

今年も三国祭のお囃子の練習が三国コミセン内に響き渡っています。

先日の町家再生講演会で、あのUSJを手がけた豊島さんが「三国は宝箱」と言われていたのを聞いて、こそばゆいような、そして誇らしい気持ちになりました。地元にいては気づけない魅力を外からの目線で聞くことができて目からうろこの感覚でした。これからどのように変わっていくのかとても楽しみで、今、耳にしているお囃子もいつもと違う何か特別な感じに聞こえてきます。

（希）

令和5年度　みくに地区まちづくり協議会 総会

みくに地区まちづくり協議会の令和5年度総会が、4月16日(日)三国コミュニティセンターで98人（委任状25人）が参加して開かれました。

高森会長のあいさつ後、令和4年度事業や収支決算、会計監査の報告があり、承認。引き続き、令和5年度の事業計画案、予算案について説明があり、全会一致で承認され、令和5年度みくに地区まちづくり協議会が新たにスタートしました。

令和5年度 みくに地区まちづくり協議会事業計画

5月6日	（土）	芝桜除草作業
6月上旬		アサガオの苗植え（三国北小児童と）
6月11日	（日）	歴史散策「一の部」
6月25日	（日）	防災ミニ教室①（全5回　来年2月までの間に開催予定）
7月上旬		地引網体験（浜地海水浴場）
7月23日	（日）	防災講演会（東日本大震災の体験談）
9月10日	（日）	防災備蓄倉庫確認
9月中旬		ビオラの種まき
9月16日	（土）	神明社三国節輪踊り
10月21日	（土）	ハッピーハロウィン
10月下旬	（日）	ディスクゴルフのつどい
11月4日	（土）	芝桜植栽事業（汐見公園）
11月18日	（土）	エッセル坂クリーン作戦
11月27日	（月）	カンタケ栽培講習会
3月中旬		ビオラの苗植え
3月23・24日	（土・日）	みくにワイワイまつり

※日付は変更となる場合があります。

令和5年度 みくに地区まちづくり協議会役員

会　長……	髙森　重利
副会長・会計…	大﨑　央之
副会長……	倉橋　光一
副会長……	大和　久米登
副会長……	岩尾　孝一郎
事務局長……	山田　喜一郎
事務局次長…	谷川　辰夫

みくにワイワイまつり

3月25日(土) 展示・ワークショップ
3月26日(日) ステージ発表・展示・
遊びのコーナー・子どもフリーマーケット・キッチンカー

子どもフリーマーケット

ワタシのお店

「もうすぐ完売だよ。」茶目っ気たっぷり。

ミニ自転車も登場、2台とも売れたようです。

ゲームコーナーを設けるなど子ども達の店内はアイデアいっぱい。

ふれあいゲームコーナー

プラ板に好きな絵を描きアクセサリーづくり。

輪ゴムてっぽう。狙いをさだめて…。

どこまでも高く、高く。1缶づつくずれないように慎重に

「なかなか入らない」輪投げも難しい。

親子DEパン作り。おいしかったよ。

講座生が学習の成果を発表

大ホールでは自主講座生８団体がステージ発表、またギャラリーや館内には８団体が作品の展示を行いました。

お菓子すくい

景品のお菓子すくいは、おたまにどれだけお菓子を入れられるか。大きいお菓子を狙うと数は少ないし…。子ども達も大喜びでした。

AEDを体験

防災安心部会は救命救急講習会を開きました。女性を含めて２５人が参加。とっさの場合の心臓マッサージの方法を習うとともに、AEDを使っての救命措置を体験しました。

「三国の昔ばなし」発刊

「三国の昔ばなし」は故・米崎弥四郎氏（上旭）が「三国にも知らない伝説がたくさんある」と教員をしていた昭和２０年代に収集したものです。昭和４９年、５０年に続編を含め２冊の本になり、９２編の「昔ばなし」が収録されました。

米崎　弥四郎氏が収集

今回の冊子は、米崎氏の遺稿から掲載されなかったお話しに加え、地名の由来や郷土に尽くした人々を原文のままＢ５版46ページにまとめました。

伊豆蔵欣、早崎大司郎の両氏が挿し絵を提供しました。1,000部を制作し希望者には実費（300円）で頒布します。

25話掲載、希望者に頒布

みくに大好き部会は「三国の昔ばなし」を発刊しました。町内に伝わる話のほか地名、郷土に尽くした人々など内容は多岐にわたっています。

▼町内に伝わるおはなし

三国町内に伝わる25の話を紹介。忠臣蔵で有名な赤垣源蔵の石灯篭（下台）、こんぴらさんのご神体（汐見）瀧谷寺の伝説、あたご山（上西）のいわれなど、なじみ深い場所が紹介されています。

また義経と大湊神社（安島）、弁慶の抜け穴（梶）、大工の神様太子堂（下野）他、信仰の的となっていた各地の地蔵の説明もあります。

▼地名について

神明社の起こり、日和山、岩崎、四日市などの地名がどのように生まれたかを検証。このほか川崎、雄島、黒目、下野荒井などについて書かれています。

▼三國神社という名前

三國神社は山王宮、桜谷神社など何度か名前を変えながら明治１８年に現在の名前に戻ったといわれており、そのいきさつが説明されています。

▼郷土に尽くした人々

三国焼の歴史と発展に尽くした人、安島への道をつくった人、さらに勤王の士三国幽眠、塗師一刀斎、彫刻家山田鬼斉、高見順、俳人森田愛子、画家畑潤章ら１８人。あまり知られていない人も多く興味が尽きません。

お問い合わせは三国コミュニティセンターまで。

出村北前茶屋二周年感謝祭

出村北前茶屋が２周年を迎え４月２２日に感謝祭を行いました。

地元特産の野菜、手づくりのお惣菜、手編みのカゴなどが並べられました。開店とともにたくさんの人が顔を見せ店内は大にぎわい。そばなどの食事を楽しむとともにお目当ての品を買い求めていました。池田市長も顔を見せ、食事を楽しんでいました。

住民が気軽に集う交流の場として２年前にオープン。地域の女性７人が交代で毎週火、金の午前１０時から店開きしています。特に来年には町家再生プロジェクトがスタート、多くの外国人が三国を訪れることも予想され「国際交流の場になるかも」と夢が膨らんでいます。